

《2020年5月（通算283回）月例会報告》

「新型コロナ」にどう向き合うか②

—学校・職場（と自宅）・スポーツイベント—

【日時】2020年5月29日（金）19:00～21:00

【会場】それぞれの居場所（ZOOM月例会）

【演者】嶋崎雅規（国際武道大学）、
本多克己（㈱シックス／神戸アスリートタウンクラブ）、
浅見明子（J-Workout 株式会社）

【テーマ】「新型コロナ」にどう向き合うか②—部活動・市民イベント・障がい者の現場より

【参加者（会員・メンバー）20名】

浅見明子（会社員 ジェイ.ワークアウト）、安藤裕一（㈱GMSS ヒューマンラボ）、井上俊也（大妻女子大学）、梅澤佳子（教員：多摩大学 中塚さんと同じ研究室でした）、開沼位晏（明治大学・学生）、春日大樹（会社員・筑波大学蹴球部OB）、金子正彦（会社員）、岸卓巨（サロン2002）、熊谷建志（会社員）、小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、笹原勉（日揮グローバル）、嶋崎雅規（国際武道大学）、竹内佳久（スペシャルオリンピックス）、田中俊也（静岡県三日市整形院長）、田中理恵（会社員）、茅野英一（帝京大学）、土谷享（美術家、KOSUGE1-16 代表）、中塚義実（筑波大学附属高校）、本郷由希（会社員）、本多克己（シックス、神戸アスリートタウンクラブ）

【懇親会からの参加（会員）1名】

梅本嗣（今は、個人事業主です←元博報堂）

【報告書作成者】各パートは発表者が作成。理事長が全体をまとめた。

<目次>

概要（理事長より）

- I. コロナ下での部活動のあり方—部活動の本質的な価値を見直す
- II. 市民参加型スポーツイベントとスポーツNPOとコロナウイルス
- III. 脊髄損傷者専門のトレーニングジムからみえること

概要（理事長より）【月例会案内より】

緊急事態宣言の期間が延長されました。まだまだ“非日常”が続きます。最前線の医療現場の状況を見据えながら、「新型コロナ」への対応と「経済活動」のバランスをどうとっていくのかが課題となっています。大きな方向付けは政治に委ねるしかありませんが、最終的には個々の現場でさまざまな判断を下していかなければなりません。一人ひとりが“当事者”なのです。

サロンの月例会は今回も、「新型コロナ」の問題を取り上げます。前回に引き続き Zoom を用いたオンライン開催で、今回も NPO サロン会員およびスポネットサロンメンバー限定といたします。

5月の話題提供者とテーマは次のとおりです。15分程度の話題提供のあと、参加者で自由に意見交換できればと考えます。

・嶋崎雅規（国際武道大学）

「コロナ下での部活動のあり方～部活動の本質的な価値を見直す～」

学校の休校が続き、生徒たちがスポーツを楽しむ場も失われています。高校総体（インターハイ）の中止も決まり、目標を見失った生徒たちも数多くいることでしょう。今だからこそ、みなさんで部活動の本質的な価値を見直してみましよう。

・本多克己（株式会社シックス／神戸アスリートタウンクラブ）

「市民参加型スポーツイベントとスポーツNPOとコロナウイルス」

民間企業、NPOとしてスポーツイベント、体育館の運営などにかかわっており、コロナウイルスから大きな影響を受けている状況を報告します。特に、フットサルフェスタ（旧ホンダカップ）については、今後のあり方など意見交換ができればと考えています。

・浅見明子（J-workout株式会社）

「脊髄損傷者専門のトレーニングジムからみえること」

私が勤めるのは、「一生車いす」と医師から宣告された脊髄損傷者が再歩行を目指し通うジム。病院のリハとも一般のフィットネスともちょっと違ったジムには約500名が通っています。緊急事態宣言中の脊髄損傷者の皆さんの実態とジムのあり方についてお話しできればと思います。

I. コロナ下での部活動のあり方—部活動の本質的な価値を見直す

国際武道大学 嶋崎 雅規

高校スポーツ 全国大会中止

全国高校総体や高校野球選手権など、高校スポーツの全国大会が、コロナウイルス感染拡大防止のため相次いで中止となっている。マスコミの論調は、「史上初となる中止の決断に選手、指導者らは無念の思いをにじませた」（朝日）、「選手指導者は大きな目標がなくなったことを嘆く」（読売）など、出場を目指していた選手や指導者がかわいそうという論調ばかりである。

「一番大きな目標だった大会がなくなるのは悲しい」（相撲部・男子）という選手の声や、「受け止めようがない。子どもたちが頑張ってきた成果を発表する一番大きな舞台であり、成長の場として大事にしてきた大会悔しい思いしかありません」（体操部顧問）という指導者の声は理解できる。その気持ちはよくわかる。しかし、「全国大会が相次いで中止となると大学への推薦基準を満たすことができなくなる。競技の道が断たれないようにしてほしい」（ソフトボール部顧問）までくると、いったい何のためにスポーツに取り組んできたのか聞いてみたくなる。スポーツは、進学的手段なのか？

唯一、朝日新聞の忠鉢信一氏だけが、「全国高校総体という晴れ舞台がなくなったとき、監督やコーチは、生徒を引きつけ続ける指導力を持っているだろうか。勝利にひも付いた進学や就職が不確かになっても、高校生たちは競技を続けたいと思えるだろうか。勝ち負け以外のスポーツの魅力を、競技団体は示せていただろうか。再び開催される日のために、考える機会にしたい」と、本質について議論を示していた。

さらに、夏の高校野球選手権中止の会見で、最初に中止を発表したのが、大会会長の渡辺雅隆・朝日新聞社社長だったことには、大いに違和感を感じた。名古屋大学の内田良氏の「「高校野球は教育の一環」と言いながら、大会中止を発表した大会会長は朝日新聞の社長だった。春もそうだが、夏の甲子園も結局、新聞社のイベントなのだ」という現実を改めて思い知らされた」と同じことを感じた。

代替大会の開催

「最後まで大会があると信じていた。どこを目標に練習すればいいのかわからない」「この夏は〇〇学園の歴史を変えるつもりでやってきた。挑戦することもできないのは、正直悔しい」という高校球児の声に対して、埼玉県高野連は、すぐさま8月に代替大会を行うことを発表。各都道府県もこれに続く見通しだ。また、佐賀県は、新型コロナウイルスの影響で中止になった県高校総合体育大会（県高校総体）と全国高校野球選手権佐賀大会に代わる独自の大会を、合同で開催すると発表した。6月13日から7月30日までの日程で、野球を含む29競技30種目を実施する。

また、指導者が独自の大会を計画するという例も見られる。選抜、玉竜旗に続く中止で3大会すべてがなくなった剣道では、昨年高校総体男子で2連覇した九州学院（熊本）の米田敏郎監督が感染収束を前提に大会を企画し、選抜に出場予定だった男女各校にファックスで参加を呼びかけた。計画では12月25日~27日、沖縄県立武道館で開催される予定だ。

代替大会を開催することが悪いとは思わない。本気で試合を行いたいという気持ちは、みんなが持っているだろう。それをかなえることは、決して間違っていない。しかし、それは本当に生徒たちもためになっているのだろうか。何か忘れていないことはないだろうか。

今こそ、部活動を生徒の手に取り戻すチャンス

学習指導要領にみられるように、部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」活動である。本来は、生徒が自分たちで活動を組織するものである。しかし、今までの部活動は、すでにある部活動の中から選ぶ、決められた大会（主に中体連・高体連主催の大会）に出場する、練習メニューや練習試合の相手も先生が決めるなど、決して生徒主体の活動にはなっていない。この「コロナ禍」は、それを生徒の手に取り戻すチャンスととらえられないだろうか。3年生が最後に本気で戦う場は、生徒たち自身が考え、アイデアを出し合い、生徒たち自身の手で作らせてあげられないのだろうか。アイデアは、いろいろと考えられる。たとえば、普段から親交のある学校同士で、どの競技も対抗戦を行うことも考えられる。大学には、早慶戦や上南戦、東大と京大の総合定期戦などの例もある。両校の生徒やOB、保護者の応援のもと、母校の意地をかけた戦いは、一生の思い出となることだろう。また、単一競技でも、各都道府県内の同レベルのチームでリーグ戦を行うことも考えられる。現に筆者は、高校の教員時代、都内の私立高校4校で準公式戦という形でリーグ戦を行っていた経験がある。こうしたアイデアは、まだまだ考えられるだろう。大人たちは、生徒たちのアイデアを実現するための経済的・組織的支援を行えばよいのではないか。

ゆたかなスポーツライフをめざして：生涯スポーツ社会に向けて

「ゆたかなスポーツライフ」とは、日常生活の中にスポーツが位置付けられていることととらえる。たとえば、朝のジョギングや放課後のスポーツ活動、仕事帰りのフィットネスジムや休日のフットサルなどが、きちんと生活に根ざしていることが、ゆたかなスポーツライフではないだろうか。そんな日常が、コロナ禍の影響で奪われてしまった。一日も早く「スポーツ」を日常に取り戻したいものである。そのためには、個々の努力も必要だ。3密を避けるとか、ソーシャル・ディスタンスなど新しい生活様式にも慣れていかなければならない。そして、スポーツを行う場は、自らの手で作り出していくことだ。

高等学校学習指導要領「保健体育」編の教科の目標には、「豊かなスポーツライフを計画するための資質能力を次の通り育成することを目指す」と書かれており、その3番目には、「生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う」と書かれている。スポーツを楽しむ場を自分たちで作ることを、これからの学校では教育していかなければならない。最後の試合を自分たちの手で作ることは、その練習をするいい機会かもしれない。

II. 市民参加型スポーツイベントとスポーツ NPO とコロナウイルス

本多克己 (㈱シックス/神戸アスリートタウンクラブ)

民間企業、NPO としてスポーツイベント、体育館の運営などにかかわっており、コロナウイルスから大きな影響を受けている状況を報告します。特に、フットサルフェスタ、旧ホンダカップについては、今後のあり方など意見交換ができればと考えています。

自粛要請を受けてリレーマラソン中止

まずは神戸の NPO で主催しているリレーマラソン大会です。毎年スポーツ振興くじの助成を受けて実施しています。42.195km をタスキをつなぎながらチームで走るというイベントで、神戸は 8 回目、豊中は 9 回目の開催となる予定でしたが、いずれも中止となりました。直前まで開催する方向で調整を続けましたが、2 月 26 日、27 日の政府からの自粛要請を受けての苦渋の決断となりました。

通常は申込後のキャンセルは一切受け付けずとしているのですが、今回はコロナに起因するキャンセルは受け付け、返金を行うという方針で検討を進めました。

2 月 16 日に東京マラソンが中止を決定し、これを受けて、この時期に数多く開催予定だったマラソン大会が軒並み中止を決定しました。そして東京マラソンにならって、私が知る限りすべての大会が返金なしという対応を行いました。この時期には、事務局には申込者からの電話に加えて、他の大会関係者からの問い合わせが多く寄せられました。開催予定ということをお伝えすると驚かれることが多かったです。開催予定ということに対しては、SNS などでも批判があるかと思っておりましたが、ほとんどネガティブな意見はありませんでした。チームや会社として出場するという話になっているが、自分あるいは子どもは出場したくないので、大会を中止してほしい、という電話が数件ありました。

最終的には中止、返金なしとなり、それをホームページなどで発表し、申込者に連絡をとりました。同チームで次年度に参加するチームについては割引を行い、神戸では参加賞に予定されていたタオルを郵送することとしました。返金なしに対しては厳しい意見が寄せられることを覚悟していましたが、クレームやお叱りの声はほとんどありませんでした。

関係者のなかにも、「開催しよう」という声が多く、申込者からも開催に向けて前向きな声が多かったのですが、ランナーの安全を考えると中止という判断をせざるを得ませんでした。開催日の直前になっての中止となり、関係者、参加者にはご迷惑をおかけすることになりましたが、なんとか開催できないかと知恵を絞ったことは理解いただけて、あたたかい言葉も多数いただきました。



- 2020年2月16日に東京マラソン(3月1日)中止決定。参加費は返金せず。
- これ以後、ほぼすべてのマラソンが中止に。いずれも参加費返金なし。
- 事務局には参加申込者に加え、他の大会関係者(大半は自治体)からの問合せ。
- 直前まで開催に向けての調整、準備を進めるが、2月27日に中止を決定

神戸ユニバーリレーマラソンは、令和2年3月1日の開催に向けて、さまざまな安全対策と準備を重ね、開催の道を探って参りましたが、令和2年2月26日の政府からの自粛要請を受けて、共催各社との協議を行い、中止せざるを得ないとの判断に至りました。
開催の場合にはキャンセル希望のチームには返金に応じることとし、受け付けておりましたが、中止のため規定どおり参加者の返金できませんこと、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。参加賞のタオルを郵送させていただきます(来年度に参加いただく場合は参加費を1人あたり500円の割引とさせていただきます。手続きにつきましては、来年度の開催要項とあわせ、改めてご案内させていただきます。大会を楽しましに準備していただいた皆さまには誠に申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

2020年2月27日

最終的な判断の根拠は、ランナーの安全。

NPOの法人運営と体育館運営



グリーンアリーナ神戸

神戸アスリートタウンクラブにて運営受託

- ・ 3月21日神戸市からの営業自粛要請
- ・ 3月22日よりトレーニングセンター営業中止
- ・ 6月4日よりアリーナ営業再開
- ・ トレーニングセンターは再開未定

社員は2人のみが出勤し、他は休業・・・給与はどうする？

3月に入ると民間のフィットネスクラブなども軒並み営業休止となりましたが、神戸市の方針もあって、比較的休止の判断は遅かったと思います。

支給済	持続化給付金 ・ 50%以上売上げ減少の法人に最大200万円
申請中	雇用調整助成金（社員） 雇用安定助成金（アルバイト） ・ 1日あたり上限15000円（当初は8500円）を助成
申請中	小規模事業者持続化補助金 ・ 非対面型ビジネスモデルへの転換、テレワーク環境の整備などに対して最大100万円。 事業再開時（感染防止対策のための取組）に対してはさらに50万円。
報告済	スポーツ振興くじ助成 ・ コロナの影響で中止になった大会に対しては、赤字を補填する措置

条件緩和、支給額増！ **手続きがどんどん簡単に！**


リレーマラソンを主催している特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブでは、兵庫県下有数規模の体育館であるグリーンアリーナ神戸の運営を行っています。体育館のなかには、スポーツジム、私たちはトレーニングセンターと呼んでいます、があり、ジムでのクラスター発生もあったことから、運営にあたっては非常にデリケートな対応が必要となりました。

この体育館の運営を行っているNPOでは、10名ほどの社員と大勢のアルバイトを雇用しています。毎日最低限の管理と電話対応などのために2名が出勤していましたが、休業に際しては、社員も自宅待機してもらうことになりました。毎月の運営費は確保できていたのですが、大幅な売上減少になり、様々な補助金などを受けて、何とか持ちこたえている、というのが現状です。

テレビなどでは、「わかりにくい」、「手続きが煩雑」、「支払われるのが遅い」というニュースが飛び交っています。確かにそういった声に応えるために、見切り発車もあったでしょうし、要項を読んでもよくわからない、電話で問合せでもよくわからないといった点はありました。ただ、全般的にみれば、これまでサロン2002などでもスポーツ振興くじの助成などを経験してきた身からすると、非常に簡単な手続きで申請、給付が行われるという印象です。なかには、「こんな簡単な資料で国のカネをつぎ込んでもいいのか」と思えるようなものもあります。同じ補助金でも、後になると提出資料が少なくなって手続きが簡単になったり、条件が緩和されたり、対象が拡大されたり、より多くの対象に、多くの額を支給する方向にすばやく、大きく動いていた感があります。ここでこうして話をしているように、これらの制度について様々な意見があることと思いますが、こうして短期間でルールをつくりあげ、運営しているお役所の皆さまには感謝したいと思います。

サロン2002で助成金を受けている大会、広報誌については、コロナの影響を受けることはありませんでしたが、3月に中止となった2件のリレーマラソンについては、いずれもスポーツ振興くじの助成を受けていました。通常のルールでは、中止になった場合は助成金が支払われないことになっていますが、コロナの影響での中止については、それまでに支出している額に対しては支給が行われることになり、赤字は最低限に抑えることができました。これも柔軟な対応に感謝大です。

民間フットサル大会の開催



フットサルフェスタ (旧ホンダカップ)

- 毎年3月に募集開始
5月キックオフ～8月全国大会
- 全国大会はオーシャンアリーナから
グリーンアリーナ神戸に変更
- 今年は8月1日、2日で予定していたが、
秋の全国大会にむけて開催方法など検討中。

コロナ収束後の発散の場、仲間との絆を再確認する場にあたりしいスポーツの楽しみ方を提示したい

何ができるか？何をすべきか？何をしてはいけないか？

最後に、現在計画中の大会です。「ホンダカップ」としてご存じの方も多い大会です。サロン2002のメンバーも出場してくれたり、審判で参加してくれたり、一緒にスポンサー営業してくれたり、様々な形でかかわってくださっている大会です。もともと日本ハムがスポンサーで11年開催し、その後、本田技研工業が10年間スポンサードしてくれました。本田が10周年を機に協賛

を終了した後はタイトルスポンサーなしで開催してきました。毎年3月10日に募集開始して、5月開幕、8月に全国大会を実施していますが、今年はコロナの影響でスケジュールを変更して、秋開催に向けて検討を進めています。おそらく after コロナとはならないでしょうから、with コロナの環境のなかで、何ができるのか、何をすべきか、何をしてはいけないか、しっかり考えていきたいと思えます。この大会をモデルとして with コロナの大会のあり方が発信できればと思います。今日は皆さんのご意見やアイデアもいただけるとありがたいです。

Ⅲ. 脊髄損傷者専門のトレーニングジムからみえること

浅見明子 (J-workout 株式会社)

私が勤めるのは、「一生車いす」と医師から宣告された脊髄損傷者が再歩行を目指し通うジム。病院のリハとも一般のフィットネスともちょっと違ったジムには約500名が通っています。緊急事態宣言中の脊髄損傷者の皆さんの実態とジムのあり方についてお話できればと思います。

脊髄損傷者専門トレーニングジム

私たち人間は、脳からの命令が脊髄を通り全身を動かしています。現在の医療では脊髄損傷は一生治らないとされ、残存機能をいかに使って生活をしていくかというリハビリしか行っていない。脊髄損傷は実際身近な障害で、日本では毎年5000人が脊髄損傷になっており、受傷原因も長年交通事故が第1位でしたが、高齢化が進む近年は転倒による受傷が最も多くなっている。脊髄損傷専門のトレーニングジムでは、その脊髄損傷者に対しトレーニングで麻痺にアプローチし、再歩行の獲得を目指している。現在100名以上の脊髄損傷者が再歩行を獲得し、日常レベルまで回復している方もいる。

コロナ禍における運営

脊髄損傷の方は、健常者に比べ、内臓なども機能が衰えている場合が多く呼吸機能の低下により疾患が重症化しやすい傾向にある。その中で、以下のような対策を行いながらジムの運営を行っている。スタッフ、クライアントのマスク着用・こまめな手指アルコール消毒の徹底、朝の検温チェック、公共交通機関利用の禁止、来館の際車椅子のタイヤ・ハンドリムのアルコール消毒など感染の防止を徹底している。またトレーニングにおいて密になりやすい状況の中、人数の制限、換気の徹底、十分な空間維

持などの対策を行っている。またコロナ禍での新しいプログラムとしてオンラインを最大限に活用し、自宅でも運動ができる場を提供し、脊髄損傷者に対して運動の継続・大切さを呼びかけている。

アンケート調査

当ジムに通っている脊髄損傷者 93 名を 3 歳から 70 代を対象に、緊急事態宣言前後の状態のアンケート調査を行った。緊急事態宣言前の生活に比べ、スマホ・PC の操作時間の増加、運動不足、ストレスを感じている方が増加した傍ら、テレワークというわざわざ外出しなくていい働き方に、生活しやすさ、働きやすさを感じている方もいた。脊髄損傷者にとって外出というハード面がまだまだ十分整っていない日本の社会を感じる結果が出たのかもしれない。



脊髄損傷とは・・・

- ・事故や病気により脊髄が傷つき、運動・感覚・自律神経の麻痺が生じる病態。
- ・現代の医学では脊髄損傷により、慢性化した麻痺は治癒させることができない。

↓

一生車椅子生活





受傷理由別割合

年齢別受傷原因





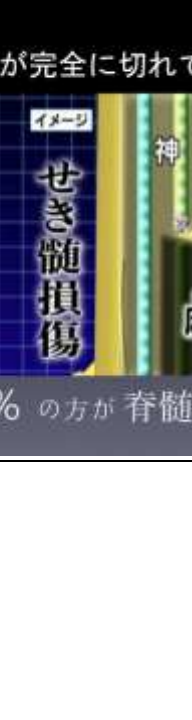
脊髄損傷者数

5,000人 / 年

-10万人 / 日本全体

- 1000人に1人(日本)

脊髄が完全に切れているわけではない



99% の方が脊髄は残存している！

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

J-Workoutの考え方

脊髄損傷

✦

“2度と回復しない”

やり方によって十分回復しうる病態

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

チームトレーニング

③アシスタント

①トレーナー

④アシスタント

②トレーナーアシスタント

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

J-Workout トレーニングスタジオ

■東京（江東区木場） ■大阪（大阪市北区） ■福岡（天神）
2020年4月
OPEN

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

新型コロナウイルス感染防止対策

- ・ 3密を避ける運営
- ・ マスクの着用
- ・ 検温
- ・ 公共交通機関の使用禁止
- ・ 車椅子の消毒

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

対新型コロナの取り組み

J-Workout®
SPINAL CORD INJURY RECOVERY

緊急事態宣言に伴う生活の変化アンケート

対応	割合
0-10%	10.0%
20%	20.0%
30%	12.9%
40%	15.6%
50%	12.0%
60%-80%以上	29.5%

